

鼻茸 (はなたけ)

鼻茸とは、副鼻腔炎(ちくのうしょう)の時に、鼻の中に出来る、病的な粘膜の“かたまり”です。小さなものから、鼻の中に充満するような大きなものまであります。

鼻茸の存在は、“ちくのうしょう”がある事の証拠です。

鼻茸は一度できると、自然に消失する事はありません。

鼻茸はだんだん大きくなっていきます。

鼻茸の症状は、ひどい副鼻腔炎(ちくのうしょう)の症状と同じです。

鼻がつまる。鼻汁が出る。臭いがしなくなる。頭痛がする。根気がなくなる。

鼻茸の治療

耳鼻咽喉科専門医は、鼻茸の程度、患者さんの年齢によって、いろいろな治療方法を選択いたします。

きわめて軽度の場合・患者さんが手術を希望しない場合。

耳鼻科的に、鼻の処置をしたり、内服薬(長期間、内服しても副作用の少ない)を使用して、悪化しない様に治療します。しかし、それだけでは完治させる事は困難なこともあります。

鼻茸だけを、簡単に切除する手術方法。

この手術方法では、鼻茸の根が残っているので、再発する可能性があります。

副鼻腔炎(ちくのうしょう)の根本的手術。(入院約4日~5日です)

内視鏡を使用して行うので、昔の手術のような苦痛はありません。

鼻茸を完全に治すためには、ちくのうしょうの根本的な手術以外に方法はありません。しかし入院を必要とするので、程度によっては、いろいろな治療を考えるべきでしょう。

一側の鼻にのみ、鼻茸が出来ている場合は、“鼻の癌”を疑う必要があります。精密検査が必須です。

矢野耳鼻咽喉科 医学博士	藤沢市善行 1-25-11	8 1	3 5 4 1
	日本耳鼻咽喉科学会専門医	矢野	潮
	日本耳鼻咽喉科学会専門医	矢野	ゆかり
	日本耳鼻咽喉科学会専門医	矢野	さゆり